

Kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】 McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Harner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

▼まさに青天の霹靂であった。本年度総会々長に予定されていた松田一夫先生が去る六月二十六日に肺癌で急逝された。心よりご冥福をお祈りする次第です。学会の準備等はその様になつていのか、日がたつにつれ心配事が重なつてきたようにみえる。

▼本会誌の総会抄録号の校正をする八月一日の段階で、会長講演はどのように行われるのか、具体的に把握できなかったが、開催地の御努力で学会案内第二報のごとく決まった。先輩諸氏にうかがうと、予定された会長が総会前に逝去されたという例を、本会では知らないと言われていた。全くの異常事態であつたが、何はともあれ合掌。▼編集委員を仰せつかつて一ケ年がたつたが、未だ右往左往しているだけである。学術雑誌の編集はニュース等と異り、文章は長いし、内容は濃いし、会員の注文は多いので新任者は判断に大変苦しんでいる。真柳先生などは、二年かかりますとケロリとしておられる。▼B5判サイズの雑誌に変えよというご意見がある。「歴史学研究」はB5判で科学雑誌同様の組み方であるが、「日本歴史」は本誌と同じサイズで原著等は一頁上下二段組みである。そして、歴史関係雑誌はこのスタイルの方が断然多いと感じている。と書いてもこのの方が本当に良いのだという自信はない。しかし、歴史が科学として闊歩していくためには、科学雑誌の形態をとらざるを得ない時期に到っているが、それは二十一世紀の課題となるでしょう。(中西 淳朗)